



令和7年度 果樹情報 第4号

(令和7年5月2日)

果樹の開花、防霜対策と病虫害防除対策
福島県農林水産部農業振興課



1 気象概況 (4月下旬、果樹研究所)

平均気温は、第5半旬が14.5℃で平年より1.6℃高く、第6半旬が13.6℃で平年より0.2℃低く経過しました。

この期間の降水量は4.5mmで平年比16.3%と平年よりかなり少なくなりました。日照時間は78.9時間で平年比106%と平年並でした。

2 土壌水分 (4月30日現在、果樹研究所)

4月30日時点の土壌水分(pF値：果樹研究所なしほ場：草生・無かん水)は、深さ20cmで2.4、深さ40cmで2.0、深さ60cmでは1.9となっており、適湿状態です。

3 発育状況 (5月1日現在)

(1) 農業総合センター果樹研究所 (福島市飯坂町)

りんごの満開は、「つがる」が4月25日で平年より5日早く、「ふじ」が4月24日で平年より6日早くなりました(表1)。

ぶどう「巨峰」の展葉は4月24日で平年並でした(表2)

(2) 農業総合センター会津地域研究所 (会津坂下町)

りんご「ふじ」の満開は、5月1日で平年より4日早くなりました(表3)。

表1 各樹種(品種)の開花および満開状況(農業総合センター果樹研究所)

樹種	品種	開花観測日			満開観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
もも	あかつき	4月9日	4月13日	4月6日	4月15日	4月19日	4月11日
	ゆうぞら	4月10日	4月14日	4月6日	4月16日	4月20日	4月11日
なし	幸水	4月17日	4月20日	4月14日	4月20日	4月25日	4月17日
	豊水	4月14日	4月16日	4月11日	4月18日	4月22日	4月15日
りんご	つがる	4月21日	4月25日	4月16日	4月25日	4月30日	4月23日
	ふじ	4月20日	4月26日	4月15日	4月24日	4月30日	4月22日
おうとう	佐藤錦	4月16日	4月18日	4月15日	4月21日	4月25日	4月18日

注) 平年は1991～2020年の平均値

表2 各樹種(品種)の発芽・展葉状況(農業総合センター果樹研究所)

樹種	品種	発芽観測日			展葉観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
ぶどう	巨峰	4月18日	4月17日	4月13日	4月24日	4月24日	4月21日
かき	平核無	4月1日	4月4日	4月3日	4月17日	4月19日	4月12日

注) 平年値は、ブドウは1998～2020年、カキは1995～2020年の平均値。

表3 各樹種(品種)の開花および満開状況(農業総合センター会津地域研究所)

樹種	品種	開花観測日			満開観測日		
		本年	平年	昨年	本年	平年	昨年
りんご	ふじ	4月26日	5月1日	4月22日	5月1日	5月5日	4月26日

注) 平年は1991～2020年の平均値。

4 発育予測（5月1日現在）

仙台管区気象台が5月1日に発表した1か月予報（5月3日～6月2日）では、今後の気温は平年並～平年より高く推移すると見込まれます。

果樹研究所における、もも「あかつき」の硬核期開始日は、気象庁の予報を反映した予測では6月5日ごろで平年より4日早い見込みです（表4）。また、収穫開始日は7月28日で平年より3日早く、収穫盛期日は7月31日で平年より4日早いと予測されます。

会津地域研究所（会津坂下町）における果樹の生育は、今後の気温が2℃高く推移した場合、かき「会津身不知」の開花が5月31日ごろで平年より5日早いと予測されます（表5）。

なお、この時期の生育は直前の気温に左右され、今後の気温の推移により大きく変動することがあるため注意が必要です。

表4 もも「あかつき」の発育予測日〔予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測〕
（果樹研究所：5月1日現在）

発育予測	観測日		今後の気温経過			気象予報
	昨 年	平 年	平年並	2℃高い	2℃低い	
硬核期開始日	5月28日	6月9日	6月5日	6月2日	6月9日	6月5日
収穫開始日	7月19日	7月31日	7月28日	7月24日	8月1日	7月28日
収穫盛期日	7月22日	8月4日	7月31日	7月28日	8月4日	7月31日

注1) 平年は1991～2020年の平均値。

注2) 気象予報とは、気象庁が発表している週間予報、2週間気温予報及び1ヶ月予報気温（3～4週目の平均気温）を反映し、以降の気温は平年並に経過した場合の予測値。

注3) もも「あかつき」の発育予測は1～2日の誤差があることに留意する。

表5 発育予測日〔予測方法：発育速度（DVR）モデルによる発育予測〕
（会津地域研究所：5月1日現在）

	開花日		今後の気温経過			2週間予測
	昨 年	平 年	平年並	2℃高い	2℃低い	
会津身不知	5月24日	6月5日	6月6日	5月31日	6月13日	6月5日

注1) 会津身不知の開花日の平年値は、1991～2020年の平均

注2) 2週間予測とは、2週間までは気象庁が発表している2週間気温予報を反映し、2週間以降の気温は平年値を用いた場合の予測値

5 栽培上の留意点

（1）防霜対策

耐凍性は生育が進むにつれて低下し、開花期から幼果期にかけて最も弱く、凍霜害の危険性が高くなるので、気象情報に十分注意し、防霜対策を徹底しましょう。

最新の情報は、福島地方気象台ホームページ「2週間気温予報」や「霜と気温の見通し」を御確認ください。

「2週間気温予報」 : <https://www.data.jma.go.jp/cpd/twoweek/>

「霜と気温の見通し」 : <https://www.jma-net.go.jp/fukushima/shimo/shimo.html>

現在の果樹の生育は、各樹種ともに平年より2～6日程度早まっています（ぶどうは平年並）。
生育ステージごとの安全限界温度を下回る温度に遭遇するおそれがある場合には、速やかに防霜対策を実施しましょう。

各樹種の生育ステージ別安全限界温度は、農業振興課ホームページの技術資料「作物別凍霜害及びひょう害技術対策（令和7年3月3日）」を参照してください。
URL <http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/nogyo-nousin-gijyutu03.html#kisyoku>

事前対策としては、防霜資材を準備するとともに、地温の上昇を図るため下草は5 cm 程度に刈り込みましょう。なお、空気や土壌が乾燥している場合は適宜かん水を実施し、土壌水分を確保しましょう（乾燥条件は気温の低下が著しいため）。

また、降霜被害が見られた場合は、被害状況を確認の上、人工受粉を徹底し結実確保を図りましょう。

(2) モ モ

新梢や果実の生育が旺盛な時期に入るので、着果管理や土壌の水分管理等を徹底し、新梢および果実の初期生育を促進しましょう。

ア 予備摘果

摘らいや摘花を実施しなかった場合や、摘らい程度が弱く着果量が多い場合は予備摘果を実施しましょう。なお、品種により、着果量が少ない場合は、仕上げ摘果から実施しましょう。

イ 仕上げ摘果

仕上げ摘果は、果実肥大に差がつく満開後 40 日頃から実施し、硬核期開始日頃までを目安に実施しましょう。

摘果の程度は最終着果量の 1 ～ 2 割増しとし、樹勢や双胚果、核障害の発生を見ながら加減しましょう。

(3) ナ シ

ア 予備摘果

予備摘果は満開後 30 日以内に終了するように努めましょう。

イ 新梢管理

芽かきは、予備摘果と同時に行い、主枝や亜主枝の背面枝はかき取りましょう。不定芽新梢が混み合っている部位は芽かきで 2 ～ 3 本に整理し、適度に間引きを実施しましょう。予備枝は、風により新梢が折損するおそれが無くなったなら先端新梢を 1 本に整理しましょう。

ウ 樹勢回復対策

土壌が乾燥している場合は、樹勢低下や土壌中のカルシウムの吸収不良による生理障害の発生が懸念されるため、かん水により土壌水分を確保しましょう。

平年より新梢伸長が不良で葉色が薄い場合には、早期に摘果を行い、着果量を制限しましょう。

また、必要に応じて、5 月中を目安に窒素成分を含む葉面散布剤を使用しましょう。

(4) リンゴ

ア 予備摘果

予備摘果は結実が明らかになりしだい開始し、満開後 30 日以内に終了するように努めましょう。原則として中心果を残し、着果量の多い樹や樹勢の弱い樹から摘果を行いましょう。

結実が良好な園地では、長果枝や葉の少ない果そう及び肥大不良の果そうの果実は摘除し、着果負荷の軽減を図りましょう。また、えき芽果の着生が多い園地では、早めに摘除しましょう。

なお、予備摘果の際に果柄を取り除くと腐らん病の予防に効果的です。

イ 新梢管理

予備摘果と平行して、主枝や骨格枝の背面、切り口等の不定芽から発生している新梢をかき取りましょう。

(5) ブドウ

ア 芽かき

「巨峰」等の 4 倍体品種における無核栽培では、やや強めの新梢を確保することに心がけましょう。1 回目は展葉 4 ～ 5 枚時に副芽や極端に強い新梢を取り除きます。2 回目は新梢の生育差が明らかになる展葉 7 ～ 8 枚時に誘引作業と併せて行いましょう。新梢が混み合っている部分や、弱い新梢を中心に取り除きましょう。3 回目は結実後に新梢の混み合っている部分の手直しや徒長的で結実の悪い新梢をかき取りましょう。

有核栽培における 1 回目の芽かきは、展葉初期に副芽や結果母枝基部 2 ～ 3 芽をかき取ります。なお、晩霜害の危険がある場合は、副芽の芽かきは次回に行いましょう。2 回目は晩霜害の危険がなくなりしだい早めに行い、展葉 7 ～ 8 枚目までに母枝先端の極端に強く花振るいの危険性が高い新梢を中心に整理しましょう。3 回目は無核栽培と同様に実施しましょう。

6 病虫害防除上の留意点

現在の果樹の生育は、平年より2～6日早まっています（ぶどうは平年並）。また、4月は平年よりも降雨が少なく経過しましたが、4月1、3半旬に降雨があり、各地で病原胞子の飛散や病斑の発生が確認されています。

今後の天候しだいでは、感染が増加するおそれがありますので、気象情報に留意し、生育に応じた計画的な防除を実施しましょう。また、耕種的防除を徹底し、発生密度の低減を図りましょう。

(1) 病害

ア リンゴ黒星病

会津地域研究所における罹病落葉からの子う胞子の飛散は既に確認されています。本病の重要な防除時期は展葉期から落花20日後ごろです。昨年、本病の発生が認められた園地では、落花直後の防除は、効果の高いDMI剤（県病虫害防除指針参照）を十分量散布して被害防止に努めましょう。

イ リンゴ褐斑病

本病は開花期にも感染リスクがあり（令和6年度参考となる成果）、果樹研究所における本病の子う胞子の初飛散は4月23日（果樹研究所内の「ふじ」の満開は4月24日）に確認されています。例年本病の発生が多い場合には、落花直後および落花2週間後にデランフロアブル 1,000倍を使用しましょう。

ウ モモせん孔細菌病

病虫害防除所による4月下旬の調査では、一部ほ場で春型枝病斑が確認されています（令和7年4月30日付け防除情報）。5月に降雨が多い場合は、感染が急激に増加するおそれがあるため注意が必要です。

本病は、発生初期の密度抑制が重要なため、定期的には場を巡回し、伝染源である春型枝病斑の早期発見とせん除を徹底し、感染防止を図りましょう。

なお、春型枝病斑のせん除は、発病部位が残らないように病斑部の周辺を含めて可能な限り基部から切り戻しましょう（図1）。また、樹冠上部での発生を見逃さないように注意し、直下への被害拡大を防止しましょう（図2）。春型枝病斑の発生は長期間にわたるため、せん除は定期的に複数回実施しましょう。

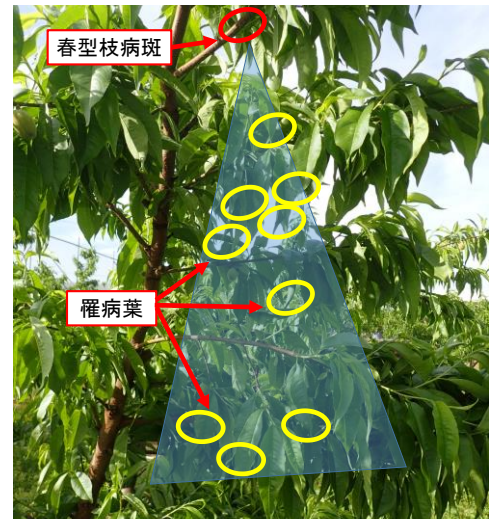


図2 春型枝病斑とその直下での新梢葉での発病

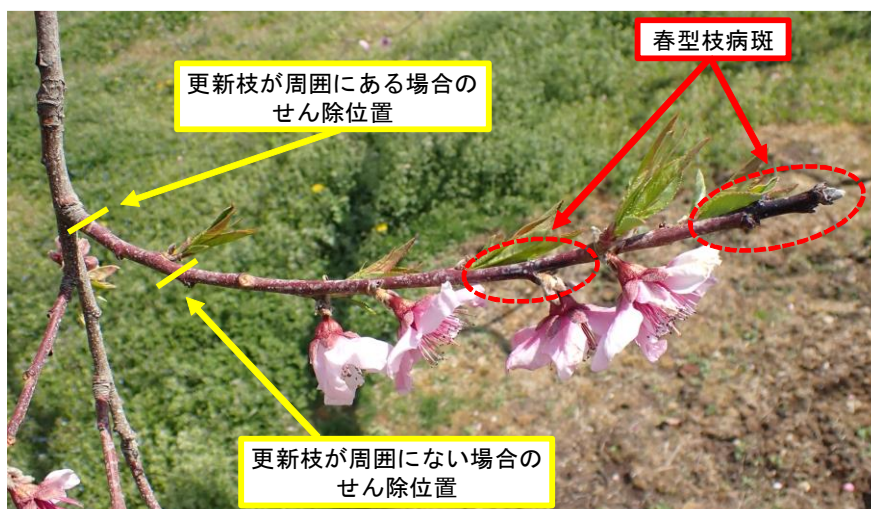


図1 春型枝病斑のせん除位置

薬剤防除は、降雨前の予防散布を基本に10日間隔で実施しましょう。ICジンク水和剤を組み入れた防除体系によって本病の被害を軽減できることが明らかになっているため（令和6年度普及に移しうる成果）、落花10日後にICジンク水和剤 1,000倍を使用し、被害防止に努めましょう。

なお、銅水和剤（クプロシールド）を使用する際は、薬害の発生を軽減するため、炭酸カルシウム水和剤（クレフノン 100倍）を、必ずバケツ等で一次希釈を十分に行ってから加用しましょう。また、薬剤が沈殿しないように攪拌しながら散布を行いましょう。高温時の使用や連用は、薬害が発生しやすくなるおそれがあるため避けましょう。

エ モモうどんこ病

例年本病（「毛じヤケ」を含む）の発生が多い場合には、落花 10 日後ごろにトリフミン水和剤 1,500 倍を使用しましょう。

オ モモ灰星病

花腐れは果実への伝染源となるため、花の枯死やヤニの噴出を目印にして、見つけしだいせん除しましょう。せん除した枝は必ず園外に持ち出し、菌密度の低下に努めましょう。

本病は、ももの他、おうとう、すもも、あんずに発生します。園地周辺の花腐れの発生にも注意し、被害の拡大を防止しましょう。

カ ナシ黒星病

病害虫防除所による4月中旬の調査では、芽基部病斑の発生は場割合は中通りが平年並、浜通りが平年よりやや多い状況でした（令和7年4月30日付け令和7年度病害虫発生予察情報発生予報第2号）。果樹研究所では、本病の初発生は4月24日に確認されています。今後の天候しだいでは、感染が増加するおそれがあるため注意が必要です。

花そう基部に発病している場合は、りん片が脱落せずに付着しているため、見つけしだい除去して適切に処分しましょう（図3）。

オ ブドウ黒とう病・ブドウ晩腐病

展葉5～6枚期はこれら2つの病害の防除時期となるため、本病に有効な薬剤を使用して初期の感染を防止しましょう。例年ブドウ黒とう病の発生が多い園地ではパレード 15フロアブル 2,000倍を使用しましょう。



図3 ナシ黒星病の花（果）そう基部（芽基部）病斑の発見の目安

(2) 虫害

ア モモハモグリガ

ミツバチ等を導入している園地では、巣箱回収後に第1世代幼虫を対象とした防除を速やかに行いましょう。第1世代成虫の誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、5月5半旬ごろと予測され、第2世代幼虫の防除適期は5月6半旬ごろと推定されます（表6）。

イ ハマキムシ類

リンゴモンハマキの越冬世代誘殺盛期は、今後の気温が2℃高く推移した場合には、5月2半旬ごろと予測され、第1世代幼虫の防除適期は5月5半旬ごろと推定され、リンゴコカクモンハマキもこれに準じると考えられます（表6）。昨年、本種の発生が多かった園地や、現在、花や新葉に食害が見られる園地では、ミツバチ等の巣箱回収後、りんごでは落花直後、なしでは落花1週間後に本種に登録のある殺虫剤を使用しましょう。

また、複合交信かく乱剤はハマキムシ類の越冬世代成虫発生初期に設置することが有効であるため、遅れないように設置しましょう。

ウ カイガラムシ類

ウメシロカイガラムシ第1世代のふ化開始は、気温が2℃高く推移した場合、5月1半旬頃と予測され、防除適期は5月2半旬頃と推定されます（表7）。クワシロカイガラムシの防除適期はウメシロカイガラムシより5～10日程度遅くなりますが、ウメシロカイガラムシの第1世代の防除適期に効果のある薬剤（令和7年4月30日付け「モモのカイガラムシ類の防除対策」

(<https://www.pref.fukushima.lg.jp/uploaded/attachment/687824.pdf>) 参照) を散布することで同時防除が可能となります。カイガラムシ類はふ化定着初期の防除が重要であるため、防除適期を逃さないように防除しましょう。

エ カメムシ類

越冬世代成虫による被害は幼果の段階から発生する場合があります。山間部や山沿いの園地では、カメムシ類の飛来状況をよく観察し、集団的な飛来を確認した場合には速やかに防除を行いましょう。

表6 果樹研究所における防除時期の推定（令和7年4月30日現在）

今後の気温予測	モモハモグリガ		リンゴモンハマキ	
	第1世代 誘殺盛期	第2世代 防除適期	越冬世代 誘殺盛期	第1世代 防除適期
2℃高い	5月24日	5月29日	5月10日	5月24日
平年並み	5月29日	6月5日	5月14日	5月30日
2℃低い	6月4日	6月11日	5月18日	6月5日

起算日：モモハモグリガ4月16日、リンゴモンハマキ3月1日（演算方法は三角法）

表7 果樹研究所における防除時期の推定（令和7年4月30日現在）

今後の気温予測	ウメシロカイガラムシ	
	第1世代 ふ化開始	第1世代 ふ化盛期
2℃高い	5月5日	5月8日
平年並	5月7日	5月11日
2℃低い	5月11日	5月17日

起算日：1月1日（演算方法は平均法）

～ 令和8年産用の貯蔵花粉を確保しましょう ～

- 令和8年産の果実生産に向け、自家採取等による花粉の確保に努めてください。
- 未使用花粉は、シリカゲル等を入れた保存容器に密封して乾燥状態を保ち、令和8年産用の貯蔵花粉として、冷凍庫（-20℃以下）に適切に保管しましょう。

病害虫の発生予察情報・防除情報

病害虫防除所のホームページに掲載していますので、活用してください。

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/37200b/>

農薬散布は、農薬の使用基準を遵守し、散布時の飛散防止に細心の注意を払いましょう。

発行：福島県農林水産部農業振興課 農業革新担当 TEL 024(521)7344

（以下のURLより他の農業技術情報等をご覧ください。）

URL: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/36021a/>